

株主各位

第90期定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示情報

株式会社 SUBARU

2021年6月1日

「会計監査人に関する事項」、「連結持分変動計算書」、「連結注記表」、「株主資本等変動計算書」および「個別注記表」につきましては、法令および当社定款第15条の規定に基づき、当社ホームページに掲載することにより株主の皆様に提供しております。

目 次

事業報告

会計監査人に関する事項……………	1 頁
------------------	-----

連結計算書類

連結持分変動計算書……………	2 頁
----------------	-----

連結注記表……………	3 頁
------------	-----

計算書類

株主資本等変動計算書……………	18 頁
-----------------	------

個別注記表……………	19 頁
------------	------

事業報告

会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称 有限責任 あずさ監査法人

(2) 会計監査人の報酬等の額

① 当期に係る報酬等の額	213百万円
② 当社および当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	231百万円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を区分しておりませんので、①の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等を含めております。
2. 当社の重要な子会社のうち在外子会社については、当社の会計監査人以外の公認会計士または監査法人（外国におけるこの資格に相当する資格を有する者を含む）の監査を受けております。

(3) 会計監査人の報酬等に監査役会が同意した理由

監査役会は、会計監査人から説明を受けた当期の会計監査の計画日数や人員配置などの内容、前期の監査実績の検証と評価、会計監査人の監査の遂行状況の相当性および報酬の前提となる見積もりの算出根拠を精査した結果、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。

(4) 非監査業務の内容

非監査業務の内容は、社債発行に伴うコンフォートレター作成業務等であります。また、連結子会社における非監査業務の内容は、合意された手続業務であります。

(5) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会社法第340条第1項各号に定めるいずれかの事由が生じた場合には会計監査人を解任するほか、その必要があると判断したときは、会計監査人の解任または不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提案いたします。

連結計算書類

連結持分変動計算書（2020年4月1日から2021年3月31日まで）

（単位：百万円）

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の 資本の 構成要素	合計		
期首残高	153,795	160,178	△6,722	1,397,239	8,391	1,712,881	7,242	1,720,123
包括利益								
当期利益	－	－	－	76,510	－	76,510	810	77,320
その他の包括利益（税引後）	－	－	－	－	31,180	31,180	596	31,776
当期包括利益合計	－	－	－	76,510	31,180	107,690	1,406	109,096
利益剰余金への振替	－	－	－	4,576	△4,576	－	－	－
所有者との取引等								
剰余金の配当	－	－	－	△42,966	－	△42,966	－	△42,966
自己株式の取得	－	－	△14	－	－	△14	－	△14
自己株式の処分	－	△68	212	－	－	144	－	144
利益剰余金から資本剰余金への振替	－	68	－	△68	－	－	－	－
所有者との取引等合計	－	－	198	△43,034	－	△42,836	－	△42,836
期末残高	153,795	160,178	△6,524	1,435,291	34,995	1,777,735	8,648	1,786,383

連結注記表

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結計算書類の作成基準

当社グループの連結計算書類は、会社計算規則第120条第1項の規定により、国際会計基準（以下「IFRS」という。）に準拠して作成しております。ただし、同項後段の規定に準拠して、IFRSにより要請される記載及び注記の一部を省略しております。

当社グループは2020年3月31日に終了する連結会計年度からIFRSを適用しており、IFRSへの移行日は2018年4月1日であります。

2. 連結の範囲及び持分法の適用に関する事項

(1) 連結子会社 73社

国内 51社……富士機械株式会社、株式会社イチタン、東京スバル株式会社、他48社

海外 22社……スバル オブ インディアナ オートモーティブ インク、
スバル オブ アメリカ インク、他20社

(2) 持分法適用会社 10社

国内 8社……西野機械工業株式会社、他7社

海外 2社……スバル オブ タイワン L T D . 、他1社

3. 連結の範囲及び持分法適用の異動状況

(1) 連結子会社

(新規) -

(除外) -

(2) 持分法適用会社

(新規) -

(除外) -

4. 会計方針に関する事項

(1) 金融商品

①金融資産の評価基準及び評価方法

(i) 当初認識時点及び測定

当社グループは、金融資産について、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産、償却原価で測定する金融資産に分類しております。

営業債権は発生日に当初認識しております。その他のすべての金融資産は、当社グループが金融商品の契約当事者となった時点で当初認識しております。

金融資産は、純損益を通じて公正価値で測定する区分に分類される場合は公正価値で当初測定し、それ以外の区分に分類される場合は、個々の金融商品ごとに公正価値に取引費用を加算した金額で当初測定しております。なお、重要な金融要素を含まない営業債権につきましては、取引価格で当初測定しております。

金融資産は、以下の要件をともに満たす場合には、償却原価で測定する金融資産に分類しております。

- ・ 契約上のキャッシュ・フローを回収するために金融資産を保有することを目的とする事業モデルに基づいて、金融資産が保有されている。
- ・ 金融資産の契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローが特定の日に生じる。

負債性金融商品への投資は、以下の要件をともに満たす場合には、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。

- ・ 契約上のキャッシュ・フローを回収と売却の両方によって目的が達成される事業モデルに基づいて、金融資産が保有されている。
- ・ 金融資産の契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローが特定の日に生じる。

資本性金融商品を除く金融資産で、上記の測定区分の要件を満たさないものは、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。

資本性金融商品については、売買目的で保有される資本性金融商品を除き、個々の商品ごとに、その他の包括利益を通じて公正価値で測定するかを指定し、当該指定を継続的に適用しております。当該指定がされなかった資本性金融商品は、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産に分類しております。

(ii) 事後測定

金融資産の当初認識後の測定は、その分類に応じて以下のとおり測定しております。

償却原価により測定する金融資産については、実効金利法による償却原価により測定しております。

純損益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の変動額は純損益として認識しております。

また、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品は、純損益に認識される利息収益、為替差損益及び減損を除き、公正価値の変動額はその他の包括利益として認識しております。認識の中止時の利得または損失は純損益に認識します。

一方、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本性金融商品は、公正価値の変動額はその他の包括利益として認識しております。なお、当該金融資産からの配当金については、金融収益の一部として当期の純損益として認識しております。その他の包括利益として認識した金額は、認識を中止した場合、もしくは公正価値が著しく低下した場合にその累積額を利益剰余金に振り替えており、純損益には振り替えておりません。

(iii) 金融資産の減損

償却原価で測定する金融資産、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する負債性金融商品、リース債権及び契約資産等に係る減損については、当該金融資産、リース債権及び契約資産等に係る予想信用損失に対して損失評価引当金を認識しております。

各報告日において、金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大したかどうかを評価しており、当該信用リスクが当初認識以降に著しく増大していない場合には、当該金融商品に係る損失評価引当金を12ヶ月の予想信用損失に等しい金額で測定しております。また、当該金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大している場合には、当該金融資産に係る損失評価引当金を全期間の予想信用損失に等しい金額で測定しております。

ただし、営業債権、リース債権及び契約資産については、常に損失評価引当金を全期間の予想信用損失に等しい金額で測定しております。

金融商品の予想信用損失は、以下のものを反映する方法で見積っております。

- ・一定範囲の生じ得る結果を評価することにより算定される、偏りのない確率加重金額
- ・貨幣の時間価値
- ・過去の事象、現在の状況及び将来の経済状況の予測についての、報告日において過大なコストや労力を掛けずに利用可能な合理的で裏付け可能な情報

当該測定に係る金額は、純損益で認識しております。

減損損失認識後に、予想信用損失の測定金額が減少した場合には、当該減少額を純損益として戻入しております。

(iv) 金融資産の認識の中止

当社グループは、金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅する、または金融資産を譲渡し、かつ、当社グループが金融資産の所有のリスクと経済価値のほとんどすべてを移転する場合にのみ金融資産の認識を中止いたします。

②金融負債

(i) 当初認識及び測定

当社グループは、金融負債について、純損益を通じて公正価値で測定する金融負債と償却原価で測定する金融負債のいずれかに分類しております。この分類は、当初認識時に決定しております。金融負債は、当社グループが契約当事者となった時点で当初認識しております。

すべての金融負債は公正価値で当初測定しておりますが、償却原価で測定する金融負債については、直接帰属する取引費用を控除した金額で測定しております。

(ii) 事後測定

金融負債の当初認識後の測定は、その分類に応じて以下のとおり測定しております。

純損益を通じて公正価値で測定する金融負債については、売買目的保有の金融負債とデリバティブを含んでおり、当初認識後公正価値で測定し、その変動については当期の純損益として認識しております。

償却原価で測定する金融負債については、当初認識後実効金利法による償却原価で測定しております。

実効金利法による償却及び認識が中止された場合の利得及び損失については、金融損益の一部として当期の純損益として認識しております。

(iii) 金融負債の認識の中止

当社グループは、金融負債が消滅したとき、すなわち、契約中に特定された債務が免責、取消し、または失効となった時に、金融負債の認識を中止いたします。

③デリバティブ及びヘッジ会計

当社グループは、認識されている金融資産と負債及び将来の取引に関するキャッシュ・フローを固定するため、先物為替予約を利用しております。また、借入金に係る支払金利に関するキャッシュ・フローを固定するため、金利スワップ取引を利用しております。

なお、上記デリバティブについて、ヘッジ会計の適用となるものではありません。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産は、取得原価と正味実現可能価額のいずれか低い価額で測定しております。正味実現可能価額は、通常の事業過程における見積売価から、完成までに要する見積原価及び見積販売費用を控除した額であります。取得原価は、主として移動平均法による原価法に基づいて算定しており、購入原価、加工費及び現在の場所及び状態に至るまでに要したすべての費用を含んでおります。

(3) 有形固定資産の評価基準、評価方法及び減価償却の方法

有形固定資産については、原価モデルを採用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した額で計上しております。取得原価には、資産の取得に直接関連する費用、解体・除去及び土地の原状回復費用、及び資産計上すべき借入費用が含まれております。土地及び建設仮勘定以外の各資産の減価償却費は、それぞれの見積耐用年数にわたり、定額法で計上しております。

- ・建物及び構築物 2～60年
- ・機械装置及び運搬具 2～20年
- ・工具器具及び備品 2～20年

なお、見積耐用年数、残存価額及び減価償却方法は、各年度末に見直しを行い、変更があった場合は、会計上の見積りの変更として将来に向かって適用しております。

(4) 無形資産の評価基準、評価方法及び償却方法

①のれん

当社グループはのれんを、取得日時点で測定した被取得企業に対する非支配持分の認識額を含む譲渡対価の公正価値から、取得日時点における識別可能な取得資産及び引受負債の純認識額（通常、公正価値）を控除した額として測定しております。のれんの償却は行わず、每期及び減損の兆候が存在する場合には、その都度、減損テストを実施しております。のれんの減損損失は純損益において認識され、その後の戻入れは行っておりません。また、のれんは取得原価から減損損失累計額を控除した額で計上しております。

②開発資産

新しい科学的または技術的知識の獲得のために行われる研究活動に対する支出は、発生時に費用認識しております。開発活動による支出については、信頼性をもって測定可能であり、技術的かつ商業的に実現可能であり、将来的に経済的便益を得られる可能性が高く、当社グループが開発を完成させ、当該資産を使用または販売する意図及びそのための十分な資質を有している場合にのみ、無形資産として資産認識しております。

開発資産の見積耐用年数は以下のとおりであります。定額法で償却しております。

・開発資産 2～5年

③その他の無形資産

個別に取得した無形資産は、原価モデルを採用し、当初認識時に取得原価で計上しております。

のれん以外の無形資産は、当初認識後、それぞれの見積耐用年数にわたって定額法で償却され、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除した帳簿価額で計上しております。主要な無形資産の見積耐用年数は以下のとおりであります。なお、耐用年数を確定できない無形資産はありません。

・ソフトウェア 2～10年

(5) リース資産の評価基準、評価方法及び減価償却の方法

リース契約開始時に、当社グループは、その契約がリースであるか否か、またはその契約にリースが含まれているか否かを判断します。

＜当社グループが借手のリース＞

リース開始日において使用权資産及びリース負債を認識しております。

使用权資産は開始日において取得原価で測定しております。開始日後においては、原価モデルを適用して、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除して測定しております。原資産の所有権がリース期間の終了時まで借手に移転する場合または、使用权資産の取得原価が借手の購入オプションを行使することを反映している場合には、使用权資産を開始日から原資産の見積耐用年数の終了時まで減価償却しております。それ以外の場合は、開始日から使用权資産の見積耐用年数またはリース期間の終了時のいずれか早い時まで減価償却しております。

リース負債は、開始日において同日現在支払われていないリース料の現在価値で測定しております。開始日後においては、リース負債に係る金利や、支払われたリース料を反映させ帳簿価額を増減しております。リース負債を見直した場合または独立したリースとして会計処理することが要求されないリースの条件変更が行われた場合には、リース負債を再測定し使用权資産を修正するか純損益に認識しております。

なお、短期リース及び少額資産のリースについては、IFRS第16号第5項、第6項を適用し、リース料をリース期間にわたり定額法により費用認識しております。

<当社グループが貸手のリース>

資産の所有に伴うリスクと経済価値のほとんどすべてを移転するリース取引をファイナンス・リースに、それ以外の場合はオペレーティング・リースに分類しています。

ファイナンス・リースに係る顧客からの受取債権は、リース投資未回収総額をリースの計算利子率で割引いた現在価値で当初認識し、連結財政状態計算書上の営業債権及びその他の債権に含めています。

オペレーティング・リース取引においては、対象となるリース物件を連結財政状態計算書に認識し、受取リース料を売上収益として、リース期間にわたって認識しています。

(6) 投資不動産

投資不動産は、賃貸収入またはキャピタル・ゲイン、もしくはその両方を得ることを目的として保有する不動産であります。投資不動産は、原価モデルを採用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した額で計上しております。土地及び建設仮勘定以外の各資産の減価償却費は、それぞれの見積耐用年数にわたり、定額法で計上しております。主要な資産項目の見積耐用年数は以下のとおりであります。

・建物及び構築物 2～50年

(7) 減損

棚卸資産及び繰延税金資産を除く当社グループの非金融資産の帳簿価額は、期末日ごとに減損の兆候の有無を判断しております。減損の兆候が存在する場合は、当該資産の回収可能価額を見積っております。のれん及び、未だ使用可能ではない無形資産については、回収可能価額を毎年同じ時期に見積っております。

資産または資金生成単位の回収可能価額は、使用価値と処分費用控除後の公正価値のうちいずれか大きい方の金額としております。使用価値の算定において、見積将来キャッシュ・フローは、貨幣の時間的価値及び当該資産に固有のリスクを反映した税引前割引率を用いて現在価値に割引いております。減損テストにおいて個別にテストされない資産は、継続的な使用により他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから、概ね独立したキャッシュ・インフローを生成する最小の資金生成単位に統合しております。のれんの資金生成単位については、のれんが内部報告目的で管理される単位に基づき決定し、集約前の事業セグメントの範囲内となっております。企業結合により取得したのれんは、結合のシナジーが得られると期待される資金生成単位に分配しております。

当社グループの全社資産は、独立したキャッシュ・インフローを生成しておりません。全社資産に減損の兆候がある場合、全社資産が帰属する資金生成単位の回収可能価額を決定しております。

減損損失は、資産または資金生成単位の帳簿価額が見積回収可能価額を超過する場合に純損益として認識しております。資金生成単位に関連して認識した減損損失は、まずその単位に分配されたのれんの帳簿価額を減額するように配分し、次に資金生成単位内のその他の資産の帳簿価額を比例的に減額しております。

のれんに関連する減損損失は戻入れしていません。その他の資産については、過去に認識した減損損失は、毎期末日において損失の減少または消滅を示す兆候の有無を評価しております。回収可能価額の決定に使用した見積りが変化した場合は、減損損失を戻入れしております。減損損失は、減損損失を認識しなかった場合の帳簿価額から必要な減価償却費及び償却額を控除した後の帳簿価額を超えない金額を上限として回収可能価額まで戻入れしております。

(8) 従業員給付

①短期従業員給付

給与、賞与及び年次有給休暇などの短期従業員給付については、勤務の対価として支払うと見込まれる金額を、従業員が勤務を提供した時に費用として認識しております。

②退職給付

当社グループは、従業員の退職給付制度として確定拠出制度と確定給付制度を運営しております。

(a) 確定拠出制度

確定拠出制度については、確定拠出制度に支払うべき拠出額を、従業員が関連する勤務を提供した時に費用として認識しております。

(b) 確定給付制度

当社グループは、確定給付制度として、退職一時金制度及び確定給付年金制度を採用しております。当社グループは、確定給付制度債務の現在価値及び関連する当期勤務費用ならびに過去勤務費用を、予測単位積増方式を用いて算定しております。

割引率は、将来の毎年度の給付支払見込日までの期間を基に割引期間を設定し、割引期間に対応した期末日時点の優良社債の市場利回りに基づき決定しております。

確定給付制度に係る負債または資産は、確定給付制度債務の現在価値から、制度資産の公正価値を控除して算定しております。また、確定給付制度に係る負債または資産の純額に係る純利息費用は、金融費用として計上しております。確定給付制度債務の現在価値と制度資産の公正価値の再測定に伴う調整額は、発生した期においてその他の包括利益として一括認識し、発生時にその他の資本の構成要素から利益剰余金に振り替えております。過去勤務費用は以下のいずれか早い時点で費用として認識しております。

(i) 制度改訂または縮小が発生した時点

(ii) 関連するリストラクチャリング費用を認識する時点

(9) 収益

①顧客との契約から生じる収益

当社グループは、顧客との契約における履行義務を識別し、収益を、顧客への財またはサービスの移転と交換に企業が権利を得ると見込んでいる対価の金額で認識しております。当該金額には、消費税や付加価値税等の税務当局の代理で回収した金額は含めておりません。また、顧客との契約における対価に変動対価が含まれている場合には、変動対価に関する不確実性がその後で解消される際に、認識した収益の累計額の重大な戻入れが生じない可能性が非常に高い範囲でのみ、取引価格に含めております。

収益は、顧客との契約における履行義務の充足に従い、一時点または一定期間にわたり認識しております。

新車販売については、新車の引渡時点において顧客が当該車両に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該車両の引渡時点で収益を認識しております。

なお、自動車事業では、製品に関して通常の瑕疵担保に加えて、オプションの保証延長サービスを有償で提供しております。当該保証延長サービスの収益は、履行義務の進捗に応じて一定期間にわたり収益を認識しております。

②ファイナンス・リースの収益

当社グループが製造業者または販売業者としての貸手となる場合は、製品の販売とみなされる部分について売上収益と対応する原価、販売損益をリース開始日に認識しております。

ファイナンス・リースに係る金融収益は、当社グループの正味リース投資未回収額に対して一定の期間利率を反映する方法で認識しております。

③オペレーティング・リースの収益

オペレーティング・リースに係る収益は、リース期間にわたって定額法により認識しております。

④利息収益

利息収益は、実効金利法により認識しております。

⑤配当金

配当による収益は、配当を受ける権利が確定した時点で認識しております。

(10) 引当金

引当金は、過去の事象の結果として、当社グループが、現在の法的または推定的債務を負っており、当該債務を決済するために経済的資源の流出が生じる可能性が高く、当該債務の金額について信頼性のある見積りができる場合に認識しております。なお、貨幣の時間的価値が重要な場合には、見積将来キャッシュ・フローを貨幣の時間的価値及び当該負債に特有のリスクを反映した税引前の利率を用いて現在価値に割り引いております。時の経過に伴う割引額の割戻しは金融費用として認識しております。

①資産除去債務

賃借契約終了時に原状回復義務のある賃借事務所等の原状回復費用見込額について、資産除去債務を認識しております。

②製品保証引当金

当社グループは、製品販売時に付与した保証約款に基づく製品保証とともに、主務官庁への届出等に基づいて個別に無償の補修を行っております。

保証約款に基づく製品保証の対象は、各国における保証約款に基づき、期間及び走行距離や不具合の原因等により決定しております。

保証約款に基づく製品保証の保証修理費用は、製品を販売した時点で引当金を認識しており、保証期間内に不具合が発生して部品を修理または交換する際に発生する費用の総額について、過去の補修実績、過去の売上台数を基礎として将来の発生見込みに基づく最善の見積りにより引当計上しております。

主務官庁への届出等に基づく保証修理費用については、経済的便益を有する資源の流出が生じる可能性が高く、その債務の金額について信頼性をもって見積ることができる場合に引当金を認識しており、製品の不具合に関する過去の経験を基礎として算定した台当たり補修費用等及び対象台数に基づく最善の見積りにより引当計上しております。

③工事損失引当金

航空宇宙事業の受注工事の損失に備えるため、連結会計年度末における未引渡工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、損失金額を合理的に見積ることができる工事について、当該損失見込額を認識しております。

④自動車環境規制関連引当金

環境規制に対応する費用の発生に備えるため、当連結会計年度末における発生見込額を計上しております。

(1) その他連結計算書類作成のための重要な事項

①消費税等の処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式を採用しております。

②金額表示の単位

金額表示の単位については、四捨五入により表示しております。

③連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(表示方法の変更)

(連結財政状態計算書関係)

前連結会計年度において、流動負債の「その他の流動負債」に含めて表示しておりました「自動車環境規制関連引当金」は、当連結会計年度より明瞭性を高めるため、流動負債・非流動負債の「引当金」に含めて表示しております。なお、前連結会計年度の流動負債「その他の流動負債」に含めていた「自動車環境規制関連引当金」1,261百万円は、流動負債の「引当金」として150百万円、非流動負債の「引当金」として1,111百万円、それぞれ組み替えております。

(会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

繰延税金資産

108,906百万円

繰延税金資産は将来減算一時差異等を使用できるだけの課税所得が稼得される可能性が高い範囲内で認識し、繰延税金負債は原則としてすべての将来加算一時差異について認識しております。

当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

製品保証引当金

238,900百万円

製品保証引当金の算定方法、及び算定に用いた主要な仮定は、(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項) (10) 引当金 ② 製品保証引当金 に記載しております。

発生が見込まれる保証修理費用について、現在入手可能な情報に基づき必要十分な金額を引当計上していると考えていますが、製品保証引当金の計算では将来複数年にわたり生じる保証修理費用を予測しているため、実際の保証修理費用が見積りと乖離することにより、製品保証引当金を追加計上する必要性が生じる可能性があることから、連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(連結財政状態計算書関係)

1. 資産に係る引当金は以下のとおりです。

営業債権及びその他の債権から控除した損失評価引当金	457百万円
その他の金融資産（非流動）から控除した損失評価引当金	592百万円

2. 有形固定資産に対する減価償却累計額 1,164,288百万円

3. 有形固定資産の連結財政状態計算書計上額は、国庫補助金等による圧縮記帳額6,946百万円を直接控除して表示しております。

4. 担保に供している資産ならびに担保付債務

- (1) 担保資産

有形固定資産	13,096百万円
--------	-----------

- (2) 担保付債務

資金調達に係る債務（流動）	389百万円
資金調達に係る債務（非流動）	9,768百万円
その他	908百万円
合計	11,065百万円

5. 偶発債務

- (1) 連結会社以外の者の、金融機関からの借入金等に対する保証債務

スバル カナダ インクの取引先	23,341百万円
従業員	4,439百万円
その他	255百万円
合計	28,035百万円

- (2) その他の偶発債務

2016年5月4日のタカタ株式会社（現・TKJP株式会社）の米国子会社とNHTSA（米国運輸省道路交通安全局）との修正合意内容、2016年5月27日の国土交通省の「タカタ製エアバッグ・インフレーターに係るリコールの拡大スケジュールについて」及びこれら両当局からの要請を踏まえたその他地域（中国及び豪州他）における対応方針に基づいたタカタ製エアバッグインフレーターに関する市場措置範囲拡大に伴う費用について、金額を合理的に見積ることができる費用については計上しております。しかしながら、今後新たな事象の発生等により追加的な計上が必要となる可能性があります。

6. 輸出手形割引高 994百万円

7. 連結子会社（スバルファイナンス株式会社）における、当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る貸出未実行残高は、次のとおりであります。

当座貸越契約及び貸出コミットメントの総額	6,300百万円
貸出実行残高	2,523百万円
差引額	3,777百万円

8. 損失が見込まれる工事契約に係る棚卸資産と工事損失引当金（流動負債の引当金）は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失が見込まれる工事契約に係る棚卸資産のうち、工事損失引当金（流動負債の引当金）に対応する額は3,666百万円（すべて仕掛品）であります。

(連結持分変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数ならびに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株 式 の 種 類	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発 行 済 株 式				
普通株式	769,175,873	—	—	769,175,873
自 己 株 式				
普通株式 (注)	2,360,368	6,589	61,827	2,305,130

(注) 自己株式の増加株式数6,589株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

自己株式の減少株式数61,827株は、2017年4月28日開催の取締役会において導入を決議した譲渡制限付株式による報酬として、2020年8月7日に処分したものなどであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月23日 第89期 定時株主総会	普通株式	21,482	28.00	2020年3月31日	2020年6月24日
2020年11月4日 取締役会	普通株式	21,484	28.00	2020年9月30日	2020年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月23日 第90期 定時株主総会	普通株式	21,484	利益剰余金	28.00	2021年3月31日	2021年6月24日

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) リスク管理に関する事項

当社グループの事業活動は、事業環境・金融市場環境による影響を受けております。事業活動の過程で保有するまたは引き受ける金融商品は固有のリスクにさらされております。リスクには、①信用リスク、②市場リスク及び③流動性リスクが含まれております。当社グループは、社内での管理体制の構築や金融商品を用いてグループの財政状態及び業績に与える影響を最小限にする危機管理を実行しております。具体的には、当社グループは以下の方法に従って管理をしております。

(2) 信用リスク

信用リスクは、保有する金融資産の相手先が契約上の債務に関して債務不履行になり、当社グループに財務上の損失が発生するリスクであります。当社グループの営業債権、リース債権、契約資産及びその他の債権は、顧客及び取引先の信用リスクにさらされております。また、主に余剰資金の運用のため保有している債券等は、発行体の信用リスクにさらされております。さらに、当社グループが為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジする目的で行っているデリバティブ取引、及び銀行取引については、これらの取引の相手方である金融機関の信用リスクにさらされております。

(3) 市場リスク

当社グループでは、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約、通貨オプションを利用してヘッジしております。なお、為替相場の状況により、半年を限度として、外貨建ての営業債権と営業債務をネットしたポジションに対して先物為替予約取引等を行っております。

(4) 流動性リスク

当社グループは、事業資金を金融機関からの借入金及び社債により調達しております。このため、金融システム・金融資本市場の混乱や、格付け会社による当社グループの信用格付けの大幅な引き下げなどの事態が生じた場合には、資金調達が制約され、支払期日に支払を実行できなくなる可能性があります。

当社は、流動性・安定性の確保のために、十分な規模の現金及び現金同等物を保有することに加え、主要金融機関とコミットメントライン契約を締結しており、現在必要とされる資金水準を満たす流動性を保持することに努めております。

2. 金融商品の公正価値等に関する事項

当年度末における主要な金融商品の帳簿価額及び公正価値については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	帳簿価額	公正価値
資産		
営業貸付金	177,038	184,792
リース債権	11,915	13,160
公正価値で測定する負債性金融商品	174,802	174,802
資本性金融商品	97,510	97,510
負債		
資金調達に係る債務	333,883	332,339
デリバティブ	7,644	7,644

金融商品の公正価値の測定方法及び前提条件

- (1) 現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務
現金及び現金同等物、営業債権及びその他の債権ならびに、営業債務及びその他の債務は償却原価で測定しておりますが、公正価値が帳簿価額と近似しているため、開示は省略しております。
- (2) 営業貸付金及びリース債権
営業貸付金及びリース債権の公正価値については、一定の期間ごとに区分した債権ごとに、債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値に基づいて算定しております。
- (3) 公正価値で測定する負債性金融商品
負債性金融商品は、主に国債、社債及び投資信託で構成されております。活発な市場のある国債及び投資信託の公正価値は、市場における公正価値に基づいて測定しております。その他の負債性金融商品は金融機関等の価格決定モデルに基づき、信用格付けや割引率などの市場で観察可能なインプットを用いて測定しております。
- (4) 資本性金融商品
活発な市場のある資本性金融商品の公正価値は、市場における公表価格に基づいて測定しております。活発な市場のない資本性金融商品の公正価値は、原則として、類似企業比較法またはその他の適切な評価方法を用いて測定しております。当該公正価値測定は、適切な権限者に承認された連結決算方針書に従い、当社グループの経理部門担当者等が評価方法を決定し、公正価値を測定しております。

(5) デリバティブ

デリバティブは、先物為替予約及び金利スワップから構成されております。公正価値は、取引先金融機関から提示された価格や為替レート等の観察可能なインプットに基づいて測定しております。

(6) 資金調達に係る債務

資金調達に係る債務は償却原価で測定しております。資金調達に係る債務の公正価値は、条件及び残存期間の類似する債務に対し適用される現在入手可能な利率を使用し、将来のキャッシュ・フローを現在価値に割り引くことによって測定しております。

(投資不動産関係)

1. 投資不動産の概要

当社及び一部の連結子会社では、埼玉県その他の地域において、賃貸オフィスビルや賃貸商業施設を所有しております。

2. 投資不動産の公正価値に関する事項

(単位：百万円)

帳簿価額	公正価値
24,282	39,191

(注) 1. 帳簿価額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 公正価値は、一部の主要な物件については社外の不動産鑑定士による評価に基づく金額（指標等を用いて自社で調整を行ったものを含む）であります。それ以外の物件については主に路線価に基づいて自社で算定した金額であります。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

2,318円17銭

2. 1株当たり当期利益

99円77銭

(重要な後発事象)

半導体を使用する部品の一部について、取引先からの供給に支障が生じたことなどにより、群馬製作所（矢島工場）の操業を2021年4月10日から4月27日の間、一部停止しました。また、2021年4月27日は、群馬製作所（本工場、矢島工場）で一部の機器のメンテナンスを行ったため、操業を停止しました。

群馬製作所（本工場、矢島工場）は2021年4月28日から2021年5月9日まで長期連休であったため、2021年5月10日以降は操業を再開しております。

米国製造拠点であるスバル オブ インディアナ オートモーティブ インクにおいても半導体を使用する部品の一部について、取引先からの供給に支障が生じたため、2021年4月19日から4月30日の間、操業を停止しました。2021年5月3日以降は操業を再開しております。

今後も半導体及び一部の部品の供給不足は続く見込まれ、操業停止や稼働調整を通じて、翌期以降の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があります。

現時点では影響額の合理的な算定は困難です。

計算書類

株主資本等変動計算書 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合計		土地圧縮 積立金	別 途 積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	153,795	160,071	－	160,071	7,901	1,341	35,335	680,800	725,377
当期変動額									
土地圧縮積立金の積立	－	－	－	－	－	－	－	－	－
剰余金の配当	－	－	－	－	－	－	－	△42,966	△42,966
当期純損失	－	－	－	－	－	－	－	△38,658	△38,658
自己株式の取得	－	－	－	－	－	－	－	－	－
自己株式の処分	－	－	△68	△68	－	－	－	－	－
利益剰余金から 資本剰余金への振替	－	－	68	68	－	－	－	△68	△68
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	－	－	－	－	－	－	－	－	－
当期変動額合計	－	－	－	－	－	－	－	△81,692	△81,692
当期末残高	153,795	160,071	－	160,071	7,901	1,341	35,335	599,108	643,685

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△6,722	1,032,521	△14	△14	1,032,507
当期変動額					
土地圧縮積立金の積立	－	－	－	－	－
剰余金の配当	－	△42,966	－	－	△42,966
当期純損失	－	△38,658	－	－	△38,658
自己株式の取得	△14	△14	－	－	△14
自己株式の処分	212	144	－	－	144
利益剰余金から 資本剰余金への振替	－	－	－	－	－
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	－	－	6,223	6,223	6,223
当期変動額合計	198	△81,494	6,223	6,223	△75,271
当期末残高	△6,524	951,027	6,209	6,209	957,236

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

- (1) 満期保有目的の債券……償却原価法（定額法）であります。
- (2) 子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法であります。
- (3) その他有価証券

時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法であります。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの……移動平均法による原価法であります。

2. 出資金の評価基準及び評価方法

移動平均法による原価法であります。

なお、組合への出資については、入手可能な直近の決算書を基礎とし持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

3. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法であります。

4. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- (1) 商品及び製品 ……主として移動平均法による原価法であります。
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)
- (2) 仕掛品、原材料及び貯蔵品……主として先入先出法による原価法であります。
(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

5. 固定資産の減価償却方法

- (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

主に定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	… 8～50年
構築物	… 7～50年
機械及び装置	… 4～10年
車両運搬具	… 3～ 7年
工具、器具及び備品	… 2～10年

- (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3年及び5年間）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

…自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

…リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

6. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金…………… 売上債権・貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金…………… 従業員に対して支給する賞与に充てるため、会社が算定した当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。
- (3) 製品保証引当金…………… 販売した製品の保証修理費用の発生に備えるため、以下の金額の合計額を計上しています。
1. 保証書の約款に従い、過去の実績を基礎に将来保証見込みを加味して算出した費用見積額
 2. 主務官庁への届出等に基づくリコール関連費用として算出した見積額
- (4) 工事損失引当金…………… 航空宇宙事業の受注工事の損失に備えるため、当事業年度末における未引渡工事のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、損失金額を合理的に見積ることができる工事について、当該損失見込額を計上しております。
- (5) 自動車環境規制関連引当金… 環境規制に対応する費用の発生に備えるため、当事業年度末における発生見込額を計上しております。
- (6) 退職給付引当金…………… 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
- 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- 過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（16年）による定額法により費用処理しております。
- 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（16年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理することとしております。

7. 売上高の計上基準

売上高のうち、航空宇宙事業の工事契約において当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）により計上しております。その他の工事については工事完成基準を適用しております。

8. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

9. その他計算書類作成のための基本となる事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式を採用しております。

(3) 金額表示の単位

金額表示の単位については、四捨五入により表示しております。

(4) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(5) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(表示方法の変更)

（「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度の年度末に係る計算書類から適用し、計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

（貸借対照表関係）

前事業年度において、流動負債の「未払費用」に含めて表示しておりました「自動車環境規制関連引当金」は、当事業年度より重要性が増したため、区分掲記することといたしました。なお、前事業年度の流動負債の「未払費用」に含めていた1,261百万円は、流動負債の「自動車環境規制関連引当金」として150百万円、固定負債の「自動車環境規制関連引当金」として1,111百万円、それぞれ組み替えております。

(会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

繰延税金資産 116,017百万円

繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

製品保証引当金 225,461百万円

当社は、製品販売時に付与した保証約款に基づく製品保証とともに、主務官庁への届出等に基づいて個別に無償の補修を行っております。

保証約款に基づく製品保証の対象は、各国における保証約款に基づき、期間及び走行距離や不具合の原因等により決定しております。

保証約款に基づく製品保証の保証修理費用は、製品を販売した時点で引当金を認識しており、保証期間内に不具合が発生して部品を修理または交換する際に発生する費用の総額について、過去の補修実績、過去の売上台数を基礎として将来の発生見込みに基づく最善の見積りにより引当計上しております。

主務官庁への届出等に基づく保証修理費用については、支出が発生する可能性が高く、合理的な見積りができる場合に引当金を認識しており、製品の不具合に関する過去の経験を基礎として算定した台当たり補修費用等及び対象台数に基づく最善の見積りにより引当計上しております。

発生が見込まれる保証修理費用について、現在入手可能な情報に基づき必要十分な金額を引当計上していると考えていますが、製品保証引当金の計算では将来複数年にわたり生じる保証修理費用を予測しているため、実際の保証修理費用が見積りと乖離することにより、製品保証引当金を追加計上する必要があることから、計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(貸借対照表関係)

1. 有形固定資産に対する減価償却累計額 625,129百万円
2. 有形固定資産の貸借対照表計上額は、国庫補助金等による圧縮記帳額6,645百万円を直接控除して表示しております。

3. 担保に供している資産ならびに担保付債務

- (1) 担保資産

建物 578百万円

土地 521百万円

合計 1,099百万円

- (2) 担保付債務

長期借入金 9,020百万円

また、土地33百万円は、関係会社の長期借入金及び預り保証金等2,656百万円の担保に供しております。

4. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

関係会社に対する短期金銭債権	251,689百万円
関係会社に対する短期金銭債務	421,212百万円
関係会社に対する長期金銭債権	74,601百万円

5. 偶発債務

(1) 金融機関からの借入金等に対する保証債務

スバル オブ アメリカ インク	22,933百万円
従業員	4,436百万円
スバル興産株式会社	919百万円
スバル用品株式会社	602百万円
タンチョン スバル オートモーティブ (タイ)	155百万円
合計	29,045百万円

(2) その他の偶発債務

2016年5月4日のタカタ株式会社（現・TKJP株式会社）の米国子会社とNHTSA（米国運輸省道路交通安全局）との修正合意内容、2016年5月27日の国土交通省の「タカタ製エアバッグ・インフレーターに係るリコールの拡大スケジュールについて」及びこれら両当局からの要請を踏まえたその他地域（中国及び豪州他）における対応方針に基づいたタカタ製エアバッグインフレーターに関する市場措置範囲拡大に伴う費用について、金額を合理的に見積ることができる費用については計上しております。しかしながら、今後新たな事象の発生等により追加的な計上が必要となる可能性があります。

6. 輸出手形割引高 994百万円

7. 損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。
損失が見込まれる工事契約に係るたな卸資産のうち、工事損失引当金に対応する額は3,666百万円（すべて仕掛品）であります。

(損益計算書関係)

1. 売上原価

工事損失引当金繰入額として3,921百万円が売上原価に含まれております。

2. 関係会社との取引高

営業取引による取引高	売上高	1,280,415百万円
	仕入高	362,142百万円
	その他取引高	31,054百万円
営業取引以外の取引高	収益	8,331百万円
	費用	1,048百万円

(株主資本等変動計算書関係)

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式…………… 1,905,130株

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
2021年3月31日現在
(単位：百万円)

繰延税金資産	
製品保証引当金	68,766
繰越欠損金	19,930
株式評価損	9,897
未払費用	9,764
退職給付引当金繰入限度超過	8,496
固定資産の減価償却費等	5,429
賞与引当金	4,425
たな卸資産	3,682
貸倒引当金繰入限度超過	894
繰延費用	505
その他	3,182
繰延税金資産小計	134,970
評価性引当額	△13,564
繰延税金資産合計	121,406
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△2,725
前払年金費用	△2,076
圧縮積立金	△588
繰延税金負債合計	△5,389
繰延税金資産の純額	116,017

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳
税引前当期純損失のため注記を省略しております。

(関連当事者との取引)

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議 決 権 等 の 所有 (被所有) 割 合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (注4)	科 目	期末残高 (注4)
子 会 社	スバルファイナンス株式会社	所有 直接 100%	当社製自動車に関 わる販売金融業務 及び当社製品のリ ース業務 役員の兼任	資金の貸付 (注1) 貸付の返済 (注1)	762,827 766,746	貸 付 金	156,180
子 会 社	ス バ ル オ ブ ア メ リ カ イ ン ク	所有 直接 100%	当社製自動車、スバル オブ インディアナ オ ートモーティブ インク 製自動車及び部品の販売 役員の兼任	製 品 の 販 売	721,869	売 掛 金	61,229
				製 品 の 仕 入 等	113,572	買 掛 金	9,910
				余剰資金の受入 (注2)	214,673 179	預 り 金	303,977
子 会 社	ス バ ル オ ブ イ ン デ ィ ア ナ オ ー ト モ ー テ ィ ヴ イ	所有 直接 100%	当社製自動車生産部 品の購入、スバル オブ アメリカ イ ンク他への完成車の 製造販売 役員の兼任	債 務 保 証 等 (注3)	22,933		
				製 品 の 販 売	170,721	売 掛 金	18,818
				製 品 の 仕 入 等	203	買 掛 金	0
				余剰資金の受入 (注2)	56,025 54	預 り 金	86,637
				受入 支払利息			

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) スバルファイナンス株式会社に対する資金の貸付については、市場金利を勘案して決定されております。
なお、担保は受け入れておりません。
- (注2) 余剰資金の受入は、当社グループで運用しているCMS (キャッシュ・マネジメント・システム) に
係る取引であります。なお、取引金額は期中平均残高を記載しております。支払利息については、市
場金利を勘案して決定されております。
- (注3) スバル オブ アメリカ インクの金融機関からの借入等につき、保証を行っております。
- (注4) 取引金額には消費税等を含めておりません。期末残高には消費税等を含めております。

(1 株当たり情報)

1. 1 株当たり純資産額 1,247円59銭
2. 1 株当たり当期純損失 △50円38銭

（重要な後発事象）

半導体を使用する部品の一部について、取引先からの供給に支障が生じたことなどにより、群馬製作所（矢島工場）の操業を2021年4月10日から4月27日の間、一部停止しました。また、2021年4月27日は、群馬製作所（本工場、矢島工場）で一部の機器のメンテナンスを行ったため、操業を停止しました。

群馬製作所（本工場、矢島工場）は2021年4月28日から2021年5月9日まで長期連休であったため、2021年5月10日以降は操業を再開しております。

米国製造拠点であるスバル オブ インディアナ オートモーティブ インクにおいても半導体を使用する部品の一部について、取引先からの供給に支障が生じたため、2021年4月19日から4月30日の間、操業を停止しました。2021年5月3日以降は操業を再開しております。

今後も半導体及び一部の部品の供給不足は続く見込まれ、操業停止や稼働調整を通じて、翌期以降の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があります。

現時点では影響額の合理的な算定は困難です。